



TITLE:

東亞天文協會觀測部月報

AUTHOR(S):

CITATION:

東亞天文協會觀測部月報. 天界 1942, 22(254): 269-272

ISSUE DATE:

1942-07-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/168408>

RIGHT:

観測部月報

Monthly Report, Observing Section, O. A. A.

★

東亞天文協會

★太陽課 (五月分) SUN 幹事 大石 辰次 (T. Oisi, Secretary)

追加報告 金田伊三吉 (四月分) 観測日数27日, 相対数平均54.

疋田 源一 (新加入) 観測地大阪市, 期間1940年十月—1942年四月, 日数203日, 相対数略す.

黒點状況 月始め西半球の四群は7日迄に西没或は消失し, 十日東半球の三群は21日までに亦西没又は消失したが, 16日子午線通過の一群の外は目立つた活動無く10日東現20日西没の一群は終始有核單獨群の特型であつた. 26日前よりは微細單獨群二個. 30日よりは無黒點になつたが, これは本年度第三回目の事である.

観測状況 缺測日は19日のみであつた. 下旬の黒點識別力と口径或は経験の有無等に左右されて無黒點日は3日前まで逆行してゐるが眞の皆無は30日以後であつた. 28日に二群を認めたのは大口径のみではなかつた.

緯度観測	観測者	南平均	北平均
杓 掛 七 二		6°(3群)	10°(4群)
加 藤 裕 成		10°(4群)	12°(3群)
蔡 章 猷		14°(2群)	13°(3群)

★流星課 METEORS (128) 課長 小旗孝二郎 (K. Komaki, President)

八月 (August Showers) は云ふまでもなく, 流星課の書き入れどきで, ペルセウス大流星雨を中心に流星は極めて多い. 主要流星群は次の如し.

期 間	極大日	幅 射 点	附近の星	備 考
七月15—八月20	八月13日	45° +57°	ペルセ γ	速, 痕, 1862 III 彗星, p=108年
八月中旬一同下旬		290 +53	白鳥 κ	速
八月下旬		291 +60	龍	緩
八月30—九月 2	九月 1日	86 +41	駁者 τ	速, 1911 II 彗星
八月—九月		346 0	魚 γ	緩

ペルセウス流星雨活動期中には, 前號に記した水瓶座 δ, 南魚 α, 山羊の流星群の外, アンドロメダ, セフエ, 羊等の星座に輻射點を有するものがある.

× × × ×

本年のペルセウス流星雨極大期は、幸に新月に當り、將に三年振りの好機である。本課は、この期を逸せず、下記のプログラムで協同観測を計畫した。多數の観測者が参加されんことを希望する。(Programme of Cooperating Observations of August Perseids)

期 間 八月9日——同16日 (8日間)

第一班 毎日1時——3時に亘る2時間。目標ペルセ群。

第二班 仕事の都合で第一班のプログラムに参加不可能のときは、毎日21時——23時に亘る2時間。

近畿班では奈良市の上空100軒を望んで、同一流星を補ふべく、同時観測をする。従つて、各地點からの方向と高度(仰角)を示すと、

大阪からは	方向： 東	仰角： 70°
京都 //	南 微 東	70
和歌山 //	北 東	53
田上 //	南 微 西	67
徳島 //	北東微東	36
神戸 //	東	60
観音寺(香川)	東 北 東	25

尙、望遠鏡による観測者は、輻射點を視野の中心に入れるがよく、寫眞観測は肉眼観測と同一の方向をとるか、又は輻射點を含む區域をねらはれたい。

× × × ×

前回報告後入手した報告は

福 永 嘉 彦 (徳島)	四月22日
前 橋 榮 太 郎 (大阪)	四月8, 9, 26日
寺 尾 正 三 (大阪)	四月25日
松 浦 千 秋 (大阪)	四月11, 12, 18, 22日

の四君のもので、何れも琴座群又は乙女座群を目的とした観測である。観測の詳細は後報にゆづる。(1942年六月14日)

★黄道光課 ZODIACAL LIGHTS 課長 山本一清 (I. Yamamoto, President)

臺灣の蔡氏より本年六月9日の夕刻の西天に於ける黄道光の観測報告を入手した。臺灣だから、こんなに遅い時期の宵天観測が可能なのであらう。

大東亞文化開展の時代に應はしく、今後は観測報告に英語をなるべく使はないことにして、下の如き語を使ひたい。但し、星座はラテン語だから、元のまゝで宜しいと思ふ。

従来用語		改めて		従来用語		改めて	
シイイング (Seeing)	視	相		vB (very Bright)	甚	だ	明
vC (very Clear)	甚	だ	良	rB (rather Bright)	明	る	い
C (Clear)		良		F (Faint)	淡		し
rC (rather Clear)	良	い	方	V (Visible)	見	え	た
B (Bad)	不	良		W (White)		白	
D (Distinct)	明	瞭		BW (Bluish White)	青		白
rD (rather Distinct)	明	瞭	な	RW (Reddish White)	赤		白
Ind (Indistinct)	不	明	瞭	YW (Yellowish White)	黄		白
vInd (very Indistinct)	甚	だ	不明瞭	Y (Yellow)		黄	
B (Bright)	明	る	し				

★彗星課たより COMET 應召して 南方に奮闘中の 本田實君が一新彗星を発見したといふニュースが、去る六月中旬の一新聞に現はれて、吾々を驚かせた。果して之れは本當だらうかと、吾々は首を長くして、本田君からの詳報を待つてゐたところ、21日になつて、確かに本田君からの第一報が大きい封筒に入つたまい、到着した。手に取る間もおそしと、開いて見る。白紙に、鉛筆ではあるが、例の堅實な手法で、六月9日、同10日、同11日と、3夜にわたつて観察のスケチが畫かれてある。側に、ごく概略の位置が書き添へてあるが、之れは少々矛盾してゐる所を見ると、同君も多少あわてゐるのか？ とにかく、この四つのスケチ (11日のは2枚) から、星圖と比べて、成るべく精密に赤経赤緯を計算して見たら、下の通りであつた。時刻は日本標準時か？

六月9日22時45分 赤経 $9^{\text{h}}44^{\text{m}}50^{\text{s}}$ 赤緯 $+31^{\circ}25.9'$ (分點1942.0) 光度9.0

// 10, 21: 35 // 9 51 54 // $+32^{\circ}10.4'$ (// //) // //

// 11, 23: 00 // 10 0 47 // $+33^{\circ}09.7'$ (// //) // //

之れで見ると、誠に立派な成績だが、惜しいことに、この星は五月以來、東京の廣瀬秀雄氏等が観測してゐるグリグ・シェルブ彗星 (1942c) である。(天界247號25頁及東京天文臺回報175) しかし之れに落膽せず、本田君も、内地に居る熱心家も、更に新しいのを搜して貰ひたい。本田君の器械は口径75耗、30倍の自作機である。

これで今年初以來発見された彗星は3個になつたわけであるが、いづれも皆、樞軸國側の人々が発見したものである。(1942a, 1942bについては本誌第250號參照)。英米側でもこれを見てゐるか、否か。(T)

太陽黑點相對數報告 (1942年五月) Sun-spot Relative Nos., May, 1942.

觀測者 Obs. (觀測地)	蔡章獻 (臺北市)	七高天 文部 (鹿兒島市)	坂上務 (鹿兒島市)	津留繁雄 (熊本市)	西尾利夫 (大阪市)	正田源一 (大阪市)	明星觀測班 (大阪市)	笠井泰雄 (京都市)	木邊成鷹 (滋賀縣)	竹內潤 (名古屋市)	加藤裕成 (名古屋市)	岩掛七二 (長野縣)	岩城馨 (靜岡縣)	大石辰次 (靜岡縣)	松下淑 (東京市)	高杉重春 (東京市)	保積善太郎 (東京市)	山田勇次 (東京市)	觀測個數 No. of Obs.
口徑 mm	55	180	42	122	105		150	45	75	32	75	102	30	55	47	55	75	57	十八名
倍率 x	64	71	64	48	75		75	53	60	50	40	75	50	64	64	64	64	80	
方法	P	P	P	P	P		D	P	D	D	P	DP	D	D	D	DP	D	D	
1	61	51	C	64	59	72	120	C	49		48	C	R	72	C	52	C	C	10
2	28	C	R	R	M		33	R	25		M	R	22	25	R	54	41	40	8
3	26	C	C	R	R		36	C	R		R	C	R	R	C	R	R	R	2
4	35	31	C	31	C		C	M	C		C	C	23	C	C	C	C	C	4
5	R	31	C	29	25		33	M	28	33	29	35	24	33	M	M	33	35	12
6	27	R	C	R	M		36	25	29		T	29	12	28	C	C	28	C	8
7	C	18	M	R	R		R	R	R		R	R	R	R	R	R	R	R	1
8	25	14	M	25	M		C	R	T		C	R	22	C	R	R	R	R	4
9	C	26	M	23	23		12	23	T	25	16	C	22	C	34	23	23	C	11
10	37	58	M	34	M	44	41	34	T		42	35	34	34	37	34	34	34	14
11	39	51	M	M	36	45	38	35	T		43	C	46	39	37	35	36	35	13
12	37	R	R	M	R		C	R	T		R	C	R	C	C	34	C	C	2
13	R	C	C	M	24		61	34	T		46	C	35	37	36	34	33	33	10
14	R	45	63	M	51	47	78	47	T		48	C	47	51	37	34	35	C	12
15	39	44	C	M	38	40	61	45	65		46	42	34	55	38	34	36	35	15
16	R	44	C	M	39	40	78	37	46	26	49	C	35	38	36	35	38	55	14
17	R	43	M	M	M		R	48	C	38	56	M	46	47	R	R	R	R	6
18	34	C	C	M	M		40	33	34		40	34	34	35	R	M	34	M	9
19	R	R	C	M	R		R	C	R		R	R	R	R	R	R	R	R	0
20	R	31	C	M	25	25	18	24	35	13	43	R	R	R	R	R	R	R	8
21	23	12	M	25	M	11	18	23	24	12	30	M	11	25	11	11	11	11	15
22	R	C	M	11	11		C	22	14	12	27	11	11	13	11	11	11	11	13
23	11	12	C	C	11		11	11	13	14	13	11	11	12	11	11	12	M	14
24	M	R	R	R	M		11	11	11		12	C	M	M	11	11	11	11	8
25	11	M	C	C	M		11	C	11	0	12	11	11	C	11	11	11	C	10
26	22	C	C	R	M		0	C	11		23	22	11	22	R	M	11	11	9
27	11	R	C	C	0		0	0	M	0	C	C	11	?	R	C	11	M	7
28	M	0	C	12	0		0	12	14		0	24	0	23	0	0	23	M	13
29	0	0	M	M	0	0	0	11	11		0	0	11		12	0	0	0	15
30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	M			0	0	0	0	16
31	0	0	0	0	T		C	0	0	0	0	C			0	C	C	0	11
日數 Days	19	19	3	11	15	10	23	20	18	12	22	11	21	21	14	18	22	14	
平均 Mean	25	27		23	23	33	31	24	23	14	28	24	24	30	20	24	21	22	

略符號については第246號を見よ。For the abbreviations, see No. 246.